

高校生の時間的展望と自己評価の関連 — 全体的自己価値, 具体的側面の自己評価, 具体的側面の重要度の観点から —

The Relationship between the Time Perspective and the Self-evaluation of high school students

Considering Global self-worth, Domain-specific self-evaluation, and Domain-specific importance

山本 ちか
Chika YAMAMOTO

本研究の目的は、高校生の時間的展望の様相を検討することである。時間的展望は、将来展望や目標の明確化、将来への肯定的展望、不安・混乱感の観点から捉えた。また、自己評価は全体的自己価値、具体的側面（外見、スポーツ能力、知的能力、家族との関係、友だちとの関係）の自己評価とその重要度の観点から捉えた。その結果、高校生の時間的展望は、男子より女子の方が将来について明確化していた。1年生よりも2年生の方が将来について明確にしており、肯定的な展望もっていた。時間的展望と自己評価との関連では、自己に対して肯定的であるほど肯定的な将来展望をもっていた。具体的側面の重要度との関連の仕方については、家族との関係を重視しているほど肯定的な将来展望をもっていたが、知的能力を重視しているほど否定的な展望をもっていた。

The purpose of this study was to examine the relationship between the time perspective and self-evaluations for high school students. Self-evaluations were assessed global self-worth, domain-specific self-evaluations, and the domain-specific importances. The self-evaluations and importances were assessed physical appearance, athletic competence, and academic competence. The results showed future time perspectives were clear for female. Future time perspectives were clear and positive, for second graders. And, positive global self-worth and positive self-evaluations were related to positive future time perspective. The importance of family relationship was related to positive future time perspective, but the importance of academic competence was related to negative future time perspective.

キーワード：時間的展望, 全体的自己価値, 具体的側面の自己評価, 具体的側面の重要度, 高校生
time perspective, global self-worth, domain-specific self-evaluation, domain-specific importance, high school students

【目的】

高校生の時期は、今後どのように生きていくか、自分自身の生き方を確立していく時期であり、将来の展望をどのようにもつのがたいへん重要な時期である。青年期は、現在のことばかり考えるのではなく、将来について考えるようになる。また現実離れした憧れや空想ではなく現実的に将来を考えていくようになる。

白井 (1986)¹⁾ は、小学生・中学生・高校生の将来展望を検討しており、年齢と共に将来が明確になってくるが、一方で将来が明るいものでなくなり、将来に対する不安が増大することを指摘している。五十嵐・氏家・二宮・井上・山本 (2008)²⁾ は、中学生の時間的展望を検討しており、将来の目標が具体化するとともに、将来への不安や混乱感も高まるといった結果を見出している。

一方で、青年期は自己像が動揺し、自分自身を必要以上に否定的に評価する時期でもある。Yamamoto, Ujiie, Ninomiya, Igarashi & Inoue (2006)³⁾ は、初期青年期に相当する中学生の全体的自己価値の縦断的变化について検討している。その結果、男子よりも女子の方が否定的に評価し、1年生から3年生になるに従ってより否定的に評価する傾向がみられている。また、山本 (2009)⁴⁾ では、高校生の全体的自己価値の性差・学年差を検討している。その結果、青年中期にあたる高校生についても男子より女子の方が自分自身を否定的に評価しており、1年生・2年生ともに自分自身をかなり否定的に評価していることが明らかとなっている。

こうした自己の不満足感、自己を否定的に評価する傾向は、青年の将来展望に影響を与えているのではないだろうか。

上述した五十嵐らの研究では、時間的展望と適応との関連を、学校適応感など多数の変数を用いて、中学生を対象として検討している (五十嵐ら, 2008²⁾, 2009⁵⁾ など)。その中で自己評価との関連についても検討しており、中学3年生の将来展望には、全体的自己価値が有意な説明力をもっていることを明らかにしている (五十嵐ら, 2010)⁶⁾。

では高校生の時間的展望は自己評価とどのような関連がみられるのであろうか。高校生も中学生と同様に、肯定的な自己評価をもつことが、肯定的な将来展望につながるのではないだろうか。

本研究では、高校生の時間的展望を、将来展望や目標の明確化、将来への肯定的展望、不安・混乱感の点から捉え、どのような様相を示しているのかを検討し

ていく。

まず、高校生の将来展望が明確であるのか、将来展望は肯定的なのか、不安感はあるのかといった点について、学年による違いや性別による違いがみられるのかどうかを検討する。

そして、時間的展望と自己評価との間にどのような関連がみられるのかを検討することにより、高校生の時間的展望の様相をさらに明らかにしていく。自己評価として、自分が好きであるかなど自分自身全体についての評価である「全体的自己価値」、勉強ができるかなどより具体的に側面に焦点をあてた「具体的側面の自己評価」、こうした側面を自分自身が重要と感じているかについての「具体的側面の重要度」をとりあげる。具体的側面の自己評価、および具体的側面の重要度については、高校生にとって重要であると思われる外見、スポーツ能力、知的能力、家族との関係、友だちとの関係の5つの側面をとりあげる。

高校生の時間的展望を将来や目標の明確化、将来への肯定的展望、不安・混乱感の3つの側面からみていくと、時間的展望のどういった側面が自己評価と関連がみられるのだろうか。中学生と同様に、全体的自己価値は将来展望に影響するのだろうか。具体的側面の自己評価が将来展望に影響するのか、影響するならばどの側面なのだろうか。具体的側面を重要であると思うことが将来展望に影響を与えるのだろうか。これらの関連の仕方は学年別・性別で異なるのかだろうか。以上のような点について検討する。

本研究の目的をまとめると以下のとおりである。

1. 高校生の時間的展望について、性別・学年別に相違がみられるかどうかを検討する。
2. 高校生の時間的展望と全体的自己価値にはどのような関連がみられるのかを検討する。
3. 高校生の時間的展望に影響を与えているのは、具体的側面の自己評価のどの側面であるのかを検討する。
4. 高校生の時間的展望に具体的側面の重要度が影響しているのかを検討する。

【方法】

1. 調査内容

a. 時間的展望：

「将来就きたい職業をはっきり決めている」「高校を卒業した後のことをいろいろ考えている」など将来や目標の明確化に関する項目 (4項目)、「将来、自分は

幸せになっていると思う」「将来, 自分は優れた人間になっていると思う」など肯定的な将来展望に関する項目(3項目), 「これからのことを考えると期待より不安のほうが大きい」「いま何をしたいか混乱している」など不安や混乱に関する項目(2項目)からなりたっている9項目を作成し, 6段階評定(非常にあてはまる～非常にあてはまらない)でたずねた。具体的な項目内容は, Table1に示した。

b. 全体的自己価値:

自分に満足しているか, 自分が好きであるかなど自分自身全体をどのように評価しているのかを6段階評定(非常にあてはまる～非常にあてはまらない)でたずねた。Harter(1988)⁷⁾の「Manual for the Self-perception Profile for Adolescence」の中の全体的自己価値についての項目, DuBois(1996)⁸⁾のSelf-Esteem Questionnaire, Rosenbergの自尊感情尺度⁹⁾(日本語訳は山本・松井・山成, 1982を参考にした¹⁰⁾)を参考に5項目を作成した。これら5項目について高得点ほど肯定的に評価していることを示すように合計得点を算出した。

c. 具体的な側面の自己評価:

外見, スポーツ能力, 知的能力, 家族との関係, 友だちとの関係について, どのように評価しているのかをたずねた(13項目)。項目は, 全体的自己価値と同様に, Harter(1988)の「Manual for the Self-perception Profile for Adolescence」の項目, DuBois(1996)のSelf-Esteem Questionnaireの項目を参考に作成し, 6段階評定(非常にあてはまる～非常にあてはまらない)でたずねた。

「外見」は, 今の自分の見た目目に満足している, 自分の顔が気に入っているなど外見についての評価である。「スポーツ能力」は, 自分のスポーツ能力に満足しているなど自分のスポーツ能力をどのように評価し

ているかをたずねた。「知的能力」は, 自分の勉強能力に満足しているなど頭のよさや勉強の能力をどのように評価しているかである。「家族との関係」の自己評価は, 家族との関係に満足している, 家族と仲良くできていないと思うなど, 家族との関係をどのように評価しているかである。「友だちとの関係」は, 友だちとの関係に満足している, 友だちとうまくやっていて自信があるなど友だちとの関係をどのように評価しているかである。それぞれの側面について, 高得点ほど肯定的に評価していることを示すように合計得点を算出した。

d. 具体的な側面の重要度:

「外見がどうであるか」「スポーツができるかどうか」「頭がよいかどうか」「学校の成績がよいかどうか」「家族との関係がよいかどうか」「友だちとの関係がよいかどうか」が自分にとってどれくらい重要であるのかを6段階評定(非常にあてはまる～非常にあてはまらない)でたずねた。

2. 調査実施時期と実施方法および調査協力者

調査は, 私立高校の1, 2年生に依頼した。四年制大学への進学者が多数を占め, スポーツなどの課外活動にも力を入れている普通科の高校である。調査の依頼は学校を通して行い, 2005年3月に担任教師よりホームルーム時間中に配付し実施してもらった。調査用紙の配付数880名(1年男子234名, 1年女子231名, 2年男子208名, 2年女子207名)であった。なお, 調査は強制ではないこと, 記入したくなければ記入しなくてもよいことを調査用紙に明記した。

分析は, すべての項目に回答のあった613名(1年男子184名, 1年女子196名, 2年男子104名, 2年女子129名)について行った。

Table1 時間的展望の項目

将来や目標の明確化	将来就きたい職業をはっきり決めている。
	高校を卒業した後のことをいろいろ考えている。
	進路について(大学・短大・専門学校あるいは職種など), もう決めている。
肯定的な将来展望	将来の目標に向けて今現在努力している。
	将来, 自分は幸せになっていると思う。
	将来, 自分は優れた人間になっていると思う。
不安・混乱感	将来, 自分の夢や希望は実現できると思う。
	これからのことを考えると期待より不安のほうが大きい。
	いま何をしたいか混乱している。

【結果】

1. 時間的展望についての学年差・性差

時間的展望の各項目について学年別性別に、平均値(SD)を算出し、学年(2)×性別(2)の分散分析を行った(Table2).

その結果、「将来就きたい職業をはっきり決めている($F=11.57, p<.01$)」「高校を卒業した後のことをいろいろ考えている($F=16.07, p<.001$)」といった項目では、性差がみられ女子の得点が高かった。反対に、「将来、自分は優れた人間になっていると思う($F=10.10, p<.01$)」は、男子の得点が高かった。女子の方が男子より将来を明確化しており、男子の方が肯定的な将来展望をもっている。

「高校を卒業した後のことをいろいろ考えている($F=4.39, p<.05$)」「進路について(大学・短大・専門学校あるいは職種など)、もう決めている($F=8.36, p<.01$)」「将来の目標に向けて今現在努力している($F=7.99, p<.01$)」「将来、自分の夢や希望は実現できると思う($F=6.891, p<.01$)」の4項目で学年差が

みられ、いずれの項目も1年生よりも2年生の得点が高かった。1年生の得点が高い項目はなかった。1年生よりも2年生の方が将来や目標を明確化しており、将来展望も肯定的なようである。

「これからのことを考えると期待より不安のほうが大きい」「いま何をしたいか混乱している」といった不安・混乱感についての2項目は、性差も学年差もみられなかったが、どの群も得点が高く、自分自身の展望について不安感や混乱感をもっているようである。

2. 自己評価についての学年差・性差

a. 全体的自己価値

得点が高いほど肯定的に評価しているよう合計点を算出した。そして学年別性別に、平均値(SD)を算出し、学年(2)×性別(2)の分散分析を行なった(Table3)。その結果、性差がみられ($F=12.25, p<.001$)、学年差や交互作用はみられなかった。

Table2 時間的展望の各項目の平均値(M)、標準偏差(SD)、および分散分析の結果

	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子	分散分析の主効果	
	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	性差	学年差
将来就きたい職業をはっきり決めている。	3.65 (1.58)	3.99 (1.55)	3.72 (1.62)	4.26 (1.42)	男<女**	n.s.
高校を卒業した後のことをいろいろ考えている。	3.78 (1.37)	4.13 (1.35)	3.91 (1.31)	4.47 (1.30)	男<女***	1<2*
進路について、もう決めている。	3.71 (1.58)	3.86 (1.53)	4.06 (1.59)	4.26 (1.46)	n.s.	1<2**
将来の目標に向けて今現在努力している。	3.34 (1.31)	3.24 (1.24)	3.58 (1.25)	3.61 (1.28)	n.s.	1<2**
将来、自分は幸せになっていると思う。	3.75 (1.23)	3.83 (1.08)	3.87 (1.12)	3.83 (1.10)	n.s.	n.s.
将来、自分は優れた人間になっていると思う。	3.06 (1.18)	2.77 (1.01)	3.11 (1.12)	2.81 (1.12)	男>女**	n.s.
将来、自分の夢や希望は実現できると思う。	3.74 (1.29)	3.63 (1.15)	4.06 (1.10)	3.84 (1.18)	n.s.	1<2**
これからのことを考えると期待より不安のほうが大きい	4.14 (1.43)	4.29 (1.25)	4.23 (1.32)	4.33 (1.25)	n.s.	n.s.
いま何をしたいか混乱している。	3.65 (1.35)	3.86 (1.30)	3.78 (1.41)	3.66 (1.34)	n.s.	n.s.

: $p<.01$, *: $p<.001$

Table3 全体的自己価値と具体的側面の自己評価の平均値(M)、標準偏差(SD)、および分散分析の結果

	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子	分散分析の主効果	
	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	性差	学年差
全体的自己価値	2.90 (0.78)	2.72 (0.75)	2.87 (0.86)	2.58 (0.83)	男>女***	n.s.
外見	2.94 (0.80)	2.37 (0.73)	3.00 (0.90)	2.36 (0.81)	男>女***	n.s.
スポーツ能力	2.98 (0.99)	2.85 (1.08)	3.38 (1.09)	2.82 (1.22)	男>女***	1<2*
自己評価 知的能力	2.48 (0.76)	2.41 (0.68)	2.68 (0.87)	2.39 (0.79)	男>女**	n.s.
家族との関係	4.12 (0.96)	4.18 (1.04)	4.19 (0.97)	4.41 (1.00)	n.s.	n.s.
友だちとの関係	3.91 (0.87)	4.10 (0.89)	4.11 (0.75)	4.14 (1.03)	n.s.	n.s.

*: $p<.05$, **: $p<.01$, ***: $p<.001$

b. 具体的側面の自己評価

外見とスポーツ能力, 知的能力, 家族との関係, 友だちとの関係についての具体的側面の自己評価について, 得点が高いほど肯定的に評価しているよう合計点を算出した. そして学年別性別に, 平均値 (SD) を算出し, 学年 (2) × 性別 (2) の分散分析を行なった (Table3).

その結果, 「外見」については, 性差のみみられ ($F=82.743, p<.001$), 男子の得点が高かった. 「スポーツ能力」は傾向が異なり, 学年差 ($F=4.07, p<.05$) と性差 ($F=13.98, p<.001$) がみられた. 交互作用もみられ, 女子では学年差はみられなかったが, 男子では1年生より2年生の得点が高いという差がみられた. 「知的能力」については, 性差のみみられ ($F=7.85, p<.01$), 男子の得点が高かった. 「家族との関係」「友だちとの関係」の2つの側面については, 学年差も性差もみられなかった. 女子よりも男子の方が自分自身を肯定的に評価している.

c. 具体的側面の重要度

外見がどうか, スポーツができるかどうか, 頭がよいかどうか, 家族との関係がよいかどうか, 友

だちとの関係がよいかどうか自分がとってどれくらい重要であるのかについて, 平均値, 標準偏差を算出した (Table4). 男女もどりの側面についても平均値がかなり高く, さまざまな側面を重要視している様子が見える.

学年や性別によって重要度に差がみられるかどうかを検討するため, 学年 (2) × 性別 (2) の分散分析を行なった. その結果, 「スポーツ能力」については, 男子の方が重要であると考えているようである ($F=6.00, p<.05$). 反対に「家族との関係」では, 女子の得点が高かった ($F=4.97, p<.05$). 「友だちとの関係」についても同様で女子の得点が高く, 女子の方が重要であると考えているようである ($F=6.98, p<.01$). またいずれの側面も学年差はみられなかった. 女子は家族や友だちなど対人関係を重要視しているようである.

3. 時間的展望と全体的自己価値の関連

時間的展望と全体的自己価値の間に関連がみられるかを検討するために, 学年別・性別に相関係数を算出した (Table5).

その結果, 「将来, 自分は幸せになっていると思う」

Table4 具体的側面の重要度の平均値 (M), 標準偏差 (SD), および分散分析の結果

	1年男子		1年女子		2年男子		2年女子		分散分析の主効果	
	M	(SD)	M	(SD)	M	(SD)	M	(SD)	性差	学年差
外見がどうか	4.10	(1.18)	4.29	(1.01)	4.09	(1.06)	4.25	(1.06)	n.s.	n.s.
スポーツがうまくできるかどうか	4.52	(1.21)	4.24	(1.11)	4.54	(1.13)	4.33	(1.19)	男>女*	n.s.
頭がよいかどうか	4.43	(1.24)	4.43	(1.07)	4.28	(1.27)	4.48	(1.03)	n.s.	n.s.
家族との関係がよいかどうか	4.45	(1.23)	4.57	(1.09)	4.48	(0.99)	4.78	(1.11)	男<女*	n.s.
友だちとの関係がよいかどうか	4.91	(1.08)	5.05	(0.89)	4.75	(1.12)	5.05	(0.95)	男<女**	n.s.

*: $p<.05$, **: $p<.01$

Table5 時間的展望と全体的自己価値の相関係数

	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子
将来就きたい職業をはっきり決めている。	-.06	.07	.12	.15
高校を卒業した後のことをいろいろ考えている。	-.03	.05	.13	.07
進路について, もう決めている。	.02	.10	.04	.16
将来の目標に向けて今現在努力している。	.11	.23 **	.13	.25 **
将来, 自分は幸せになっていると思う。	.20 **	.32 ***	.27 **	.42 ***
将来, 自分は優れた人間になっていると思う。	.18 *	.23 **	.46 ***	.50 ***
将来, 自分の夢や希望は実現できると思う。	.10	.17 *	.10	.26 **
これからのことを考えると期待より不安のほうが大きい。	-.20 **	-.27 ***	-.19	-.41 ***
いま何をしたいか混乱している。	-.17 *	-.25 ***	-.14	-.20 *

*: $p<.05$, **: $p<.01$, ***: $p<.001$

「将来、自分は優れた人間になっていると思う」については、どの群についても関連がみられた。特に2年生で高い相関がみられた。「これからのことを考えると期待より不安のほうが大きい」「いま何をしていたか混乱している」については、1年生と2年女子で全体的自己価値と負の相関がみられた。「将来の目標に向けて今現在努力している」と「将来、自分の夢や希望は実現できると思う」は、女子のみ全体的自己価値と相関がみられた。

将来への肯定的展望や不安感・混乱感が自己価値と関連しているようである。

4. 時間的展望と具体的側面の自己評価の関連

時間的展望に影響を与えているのはどの側面の自己評価なのかを検討するため、時間的展望の各項目を従

属変数とし、外見、スポーツ能力、知的能力、家族との関係、友だちとの関係の自己評価を説明変数とする重回帰分析を学年別・性別に行った。関連のみられた主な項目についての結果を、Table6から12に示した。Table中の数値は標準偏回帰係数である。

「高校を卒業した後のことをいろいろ考えている」については (Table6)、1年男子は、家族との関係、知的能力、スポーツ能力が有意に関連していた。1年女子はどの側面も関連しておらず、2年男子は知的能力、2年女子は家族との関係が関連していた。

「将来の目標に向けて今現在努力している (Table7)」については、1年男子は知的能力とスポーツ能力と家族との関係、1年女子と2年男子は知的能力と家族との関係、2年女子は知的能力とスポーツ能力が関連していた。いずれの群も知的能力の自己評価が関連して

Table6 「高校を卒業した後のことをいろいろ考えている」の重回帰分析の結果

	自己評価				重要度			
	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子
外見	-.06	.11	.03	.06	.02	-.13	.12	-.20 *
スポーツ能力	.18 *	.01	-.10	.16	-.12	-.06	-.12	-.23 *
知的能力	.19 *	.00	.44 ***	.12	.01	.20	.03	.04
家族との関係	.21 **	.06	.03	.18 *	.08	-.04	.15	.34 **
友だちとの関係	-.05	.08	-.01	.03	.13	.12	.07	.01
R^2	.10 **	.03 n.s.	.20 **	.12 *	.03 n.s.	.05 n.s.	.06 n.s.	.15 **

*: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$

Table7 「将来の目標に向けて今現在努力している」の重回帰分析の結果

	自己評価				重要度			
	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子
外見	.11	.13	.14	.06	.07	-.28 ***	-.12	-.26 **
スポーツ能力	.23 **	.13	-.08	.25 **	-.18	.09	-.05	-.12
知的能力	.29 ***	.23 **	.32 **	.29 **	-.09	.15	.15	.20 *
家族との関係	.16 *	.14 *	.21 *	.16	.15	.04	.28 **	.18
友だちとの関係	-.07	.12	-.12	-.08	.03	-.03	-.06	-.13
R^2	.21 ***	.17 ***	.24 ***	.23 ***	.05 n.s.	.09 **	.11 *	.13 **

*: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$

Table8 「将来、自分は幸せになっていると思う」の重回帰分析の結果

	自己評価				重要度			
	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子
外見	.12	.18 *	-.12	.10	.10	.06	.02	-.09
スポーツ能力	.24 **	.13	.17	.19 *	.03	.00	.22 *	-.08
知的能力	.13	.15 *	.13	.15	-.11	-.03	-.27 **	-.13
家族との関係	.30 ***	.22 **	.29 **	.18 *	.21 **	.13	.13	.18
友だちとの関係	.02	.08	.30 **	.25 **	.04	.03	.24 *	-.03
R^2	.22 ***	.19 ***	.28 ***	.29 ***	.08 *	.02 n.s.	.22 ***	.05 n.s.

*: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$

おり, 自分自身の知的能力を高く評価しているほど現在努力している。

「将来, 自分は幸せになっていると思う (Table8)」については, 1年男子がスポーツ能力と家族との関係, 1年女子が外見と知的能力と家族との関係, 2年男子が家族との関係と友だちとの関係, 2年女子がスポーツ能力と家族との関係, 友だちとの関係と関連していた。どの群も家族との関係の自己評価が関連しており, 家族との関係がよいと評価しているほど将来展望が肯定的となっている。また2年生になると友だちとの関係の自己評価も関連している。

「将来, 自分は優れた人間になっていると思う (Table9)」については, いずれの学年も男子はスポーツ能力と知的能力の自己評価が, 女子は外見と知的能力の自己評価が関連していた。知的能力の自己評価は,

どの群にも共通しており, 知的能力に肯定的なほど将来展望が肯定的である。また女子は外見も関連しており, 外見への自信が肯定的な展望につながっている。

「将来, 自分の夢や希望は実現できると思う (Table10)」については, 1年男子はスポーツ能力と家族との関係, 1年女子は外見, 2年女子は知的能力と家族との関係と友だちとの関係が関連していた。

「これからのことを考えると期待より不安の方が大きい (Table11)」については, 1年生はどの側面も関連していなかった。2年男子は知的能力, 2年女子は友だちとの関係の側面でマイナスの関連がみられた。

「いま何をしていいかわからない (Table12)」については, 1年男子以外は知的能力がマイナスに関連していた。知的能力に自信のなさを感じているほど何をしていいかわからないようである。

Table9 「将来, 自分は優れた人間になっていると思う」の重回帰分析の結果

	自己評価				重要度			
	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子
外見	.04	.28 ***	.10	.27 **	.33 ***	.06	.09	-.06
スポーツ能力	.29 ***	.22 ***	.23 *	.12	-.11	-.05	.13	.00
知的能力	.20 **	.31 ***	.31 **	.32 ***	-.17 *	.12	-.19	-.19
家族との関係	.09	.10	.20 *	.06	.14	.22 **	.20	.08
友だちとの関係	-.12	.07	.02	.09	.00	-.13	.01	-.11
R^2	.14 ***	.35 ***	.31 ***	.37 ***	.13 ***	.07 *	.08 n.s.	.06 n.s.

*: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$

Table10 「将来, 自分の夢や希望は実現できると思う」の重回帰分析の結果

	自己評価				重要度			
	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子
外見	.13	.23 **	.01	.11	.03	.00	-.07	-.20
スポーツ能力	.28 ***	.02	.11	.05	.07	-.07	.13	-.08
知的能力	.11	.10	.20	.21 *	-.09	-.01	-.13	-.14
家族との関係	.17 *	.14	.17	.19 *	.12	.09	.25 *	.13
友だちとの関係	.00	.03	.10	.19 *	.03	.06	.21	.10
R^2	.16 ***	.12 ***	.13 n.s.	.21 ***	.03 n.s.	.02 n.s.	.14 **	.07 n.s.

*: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$

Table11 「これからのことを考えると期待より不安のほうが大きい」の重回帰分析の結果

	自己評価				重要度			
	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子
外見	-.04	-.15	.11	-.16	-.10	.00	-.04	.11
スポーツ能力	-.10	.02	-.18	-.08	.09	.01	.04	-.03
知的能力	-.15	-.01	-.32 **	-.13	.07	.10	.05	.43 ***
家族との関係	-.14	.10	-.18	.08	-.10	.10	-.02	.03
友だちとの関係	.02	-.12	-.08	-.35 ***	.04	-.08	.08	-.16
R^2	.06 n.s.	.04 n.s.	.20 ***	.25 ***	.02 n.s.	.02 n.s.	.01 n.s.	.18 ***

** : $p < .01$, ***: $p < .001$

Table12 「いま何をしたいか混乱している」の重回帰分析の結果

	自己評価				重要度			
	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子
外見	-.06	-.14	-.08	-.04	.11	.11	.08	.17
スポーツ能力	-.11	.10	.08	-.18	-.14	.15	-.10	.21 *
知的能力	-.17 *	-.07	-.35 **	-.22 *	.02	-.06	-.03	.13
家族との関係	-.13	-.06	-.16	-.10	.08	.10	-.17	-.01
友だちとの関係	-.14	-.03	-.12	-.08	.02	-.11	.01	-.15
R^2	.10 **	.04 n.s.	.21 ***	.15 **	.03 n.s.	.04 n.s.	.05 n.s.	.11 *

*: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$

5. 時間的展望と具体的側面の重要度の関連

時間的展望に影響を与えているのはどの側面の重要度なのかを検討するため、時間的展望の各項目を従属変数とし、外見、スポーツ能力、知的能力、家族との関係、友だちとの関係の重要度を説明変数とする重回帰分析を学年別・性別に行った。関連のみられた主な項目についての結果を、Table6から12に示した。Table中の数値は標準偏回帰係数である。

「高校を卒業した後のことをいろいろ考えている (Table6)」については、2年女子のみ、外見、スポーツ能力、家族との関係と関連していた。外見とスポーツ能力については、これらの側面を重視しているほど将来についてあまり考えていないようである。それに対して家族との関係は、重視しているほど将来について考えている。

「将来の目標に向けて今現在努力している (Table7)」については、1年女子は外見、2年男子は家族との関係、2年女子は外見と知的能力の重要性が関連していた。いずれの群も外見を重視しているほど現在努力をしていないようである。

「将来、自分は幸せになっていると思う (Table8)」については、1年男子は家族との関係、2年男子はスポーツ能力、知的能力、友だちとの関係が関連していた。家族との関係や友だちとの関係は、重要視しているほど肯定的な展望をもっているが、知的能力に関しては重視しているほど否定的な展望をもっているようである。

「将来、自分は優れた人間になっていると思う (Table9)」については、1年男子は身体的外見と知的能力、1年女子は家族との関係が関連していた。

「将来、自分の夢や希望は実現できると思う (Table10)」については、2年男子のみ家族との関係の重要度と関連していた。

「これからのことを考えると期待より不安の方が大

き (Table11)」については、2年女子のみ、知的能力と関連していた。知的能力を重要視しているほど不安感が強いようである。

「いま何をしたいか混乱している (Table12)」についても、2年女子のみが関連しており、スポーツ能力を重要視している高校生ほど何をしたいか混乱しているようである。

【考察】

本研究の目的は、高校生の時間的展望の様相について、学年差・性差の違いを検討し、自己評価との間にどのような関連がみられるかを検討することであった。

高校生の時間的展望は、将来の職業が明確化している傾向、将来について考える傾向は、男子と比較して女子の方が強く、将来展望は男子の方が女子よりも肯定的である。また1年生と比較して2年生は、卒業後を考えたり、進路を決めたり、将来の展望がより明確化している。また、自分自身の将来展望について不安感や混乱感をもっている様子がみとれる。

時間的展望と自己評価の関連では、時間的展望の側面ごとにみても、「将来や目標の明確化」は全体的自己価値とほとんど関連していない。自分自身に対して肯定的だからといって、将来の明確化にはつながらない。また全体的自己価値と同様に、具体的側面の自己評価も将来の明確化にはそれほど影響していない。現在努力しているかどうかについてののみ、知的能力の自己評価が影響しており、知的能力を肯定的に評価している高校生ほど、将来に向けて努力している。具体的側面の重要度についても、将来の明確化にはそれほど影響していない。将来について考え目標を定めていくことができる高校生とできない高校生の違いは、自分自身の肯定感の程度にあるわけではなく、もっと別の要因が関係しているようであり、今後検討していく必要があるだろう。

幸せになっていると思う, 優れた人間になっていると思うといった「肯定的な将来展望」については, 全体的自己価値と相関がみられた。特に2年生で相関が高く, 高校3年生を目前にして将来を考える中で, 自分自身のあり方と将来像とが結びついてくるのであろう。「優れた人間になっていると思う」については, 知的能力やスポーツ能力と関連があり, 勉強にしる, スポーツ能力にしる, なにかの側面で能力をもっているという「自信」がポジティブな将来展望につながっている。一方でより漠然とした「幸せになっていると思う」では, 家族関係に満足している高校生ほど自分は幸せになるという将来像をもっており, 高校生の将来展望にとって家族との関係も重要な要因となっている。重要度とはあまり多くの関連はみられていないが, 家族との関係を重視している高校生はより肯定的な将来展望をもっている。しかし知的能力については逆の結果がえられており, 知的能力を重視しているほど否定的な将来展望をもっている。

「不安・混乱感」については, 全体的自己価値と負の相関がみられ, 特に女子については, 自分自身に否定的なことが将来の不安感や混乱感に影響している。

高校生が不安や混乱のない肯定的な将来展望をもつためには, まず肯定的な自己像を築くことが重要であろう。青年中期にあたる高校生にとって家族との関係は依然重要であり, 家族との関係を重視することが大切であると同時に, 肯定的に家族関係を捉えていくことも, 大切な要因であろう。また外見や知的能力, スポーツ能力など何かの能力面で, 自分は優れているんだという自信を持つことも大切であるが, 一方でそうした能力面を重要視し過ぎないことも, 肯定的な将来展望をもつためには必要なかもしれない。

【文献】

- 1) 白井利明, 現代青年の未来展望について 大学進学研究, 45, 41-47(1986).
- 2) 五十嵐敦, 氏家達夫, 二宮克美, 井上裕光, 山本ちか 中学生の社会的行動についての研究(58) ~将来展望の変化と学業成績との関連について~ 日本教育心理学会第50回総会発表論文集, 712(2008).
- 3) Yamamoto Chika, Ujiie Tatsuo, Ninomiya Katsumi, Igarashi Atsushi, & Inoue Hiromitsu. Longitudinal development of global self-worth and self-evaluations during early adolescence in Japan, The Society for

- Research on Adolescence Biennial Meeting, (2006).
- 4) 山本ちか 高校生の全体的自己価値の検討 名古屋文理大学紀要第9号, 29-36(2009).
 - 5) 五十嵐敦, 氏家達夫, 二宮克美, 井上裕光, 山本ちか 中学生の社会的行動についての研究(63) ~学校適応感と将来展望・不適応反応との関連について~ 日本教育心理学会第51回総会発表論文集, 621(2009).
 - 6) 五十嵐敦, 氏家達夫, 二宮克美, 井上裕光, 山本ちか 中学生の時間的展望とレジリエンスおよび自己評価や生活との関連について~中学生の社会的行動についての研究(70)~ 日本教育心理学会第52回総会発表論文集, 455(2010).
 - 7) Harter, S. The Self-Perception Profile for Adolescents. Unpublished manual, University of Denver, Denver, CO, (1988).
 - 8) DuBois, D.L., Felner, R.D., Brand, S., Phillips, R. S.C., & Lease, A.M. Early adolescent self-esteem: A developmental-ecological framework and assessment strategy. Journal of Research on Adolescence, 6, 543-579 (1996).
 - 9) Rosenberg, M. Society and the adolescent self-image. Princeton, NJ; Princeton University Press, (1965).
 - 10) 山本真理子, 松井 豊, 山成由紀子 認知された自己の諸側面の構造 教育心理学研究, 30, 64-69 (1982).

【付記】

本調査の実施にあたり, 調査にご協力いただきました高校の先生方, 並びに調査にご回答いただいた高校生の皆さんに心より感謝いたします。